

教育出版「中学社会」教科書

これを待ってたよ!!

～3つのポイント～

教育出版の教科書「中学社会」は、

1

大幅にリニューアル!

「編・章の導入部」

2

高校入試にも対応!

「学習の振り返り」

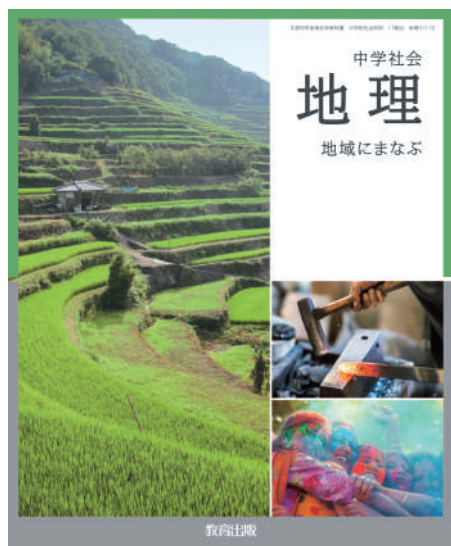
3

さらに充実!

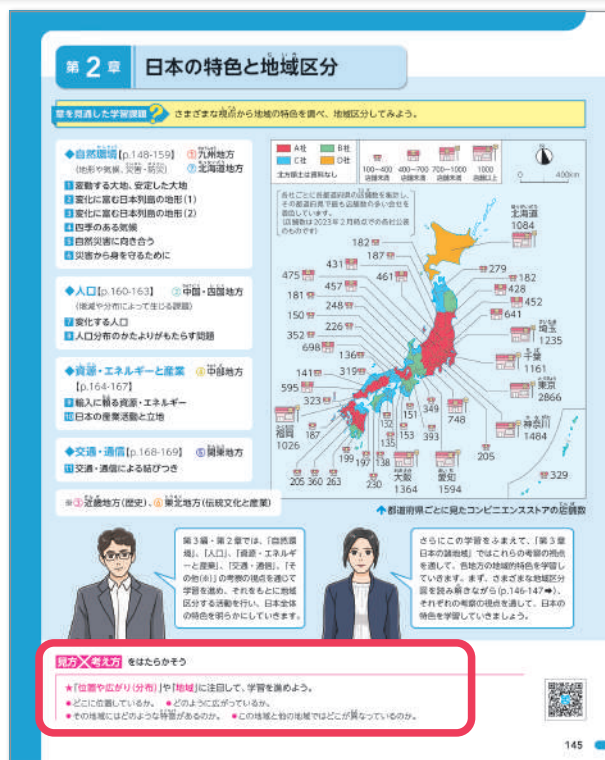
「SDGsとの関連」

本物の知識が身に付く、教科書です。

『誰かの心に残る仕事がしたい…』そんな思いをもって、教科書づくりに全力で取り組んできました。大切な内容をしっかりと、興味深く教科書に描くことで、生徒たちの記憶に残り続ける、卒業後もずっとそばに置いておきたくなるような教科書を目指しました。



～見通しをもった学習と生徒の関心をひく工夫～



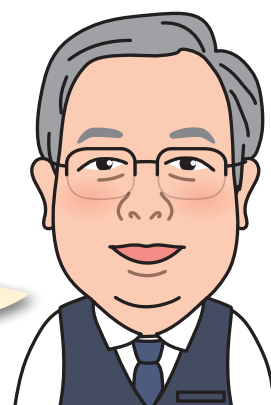
◀ 地理 p.145

導入部では、学習の見通しや見方・考え方を提示し、学習の始まりとしての役割を強めました。資料と合わせて、これからの学びへ意識を傾けてほしいです。



◀ 地理 p.62-63

世界地誌各州の先頭ページでは、節を見通す「学習テーマ」、地球的課題とSDGsの項目を示しました。写真だけでなく、他地域との比較に役立つ基礎資料や学習のヒントになるグラフを通じて、イメージをふくらませてもらえればと思います。



～みんなで描く持続可能な
未来予想図

みなさんは、10年後の自分の未来や地球の未来を思い描くことができますか。いきなり想像することは、難しいかもしれません。これから始まる公民の学習を通じて、「**私たちは、どのようにして持続可能な未来を築くことができるのだろうか**」という大きな問いへの答えを、いっしょに探していきたいと思います。

よって提案された **SDGs(Sustainable Development Goals : 持続可能な開発目標)** というものです。【人間、地球および繁栄のための行動計画】として、17の目標と169のターゲットで構成され、「地球上の誰一人として取り残さない」ことを誓っています。先進国も発展途上国も、すべての国や人々が取り組むべき普遍的な目標として掲げられています。

本質的な問いやその答えを探していくと、その標榜には「私たちは、どのようにして持続可能な未来を築くことができるのだろうか」という問いに答えるための、共通するものの見方や考え方、感じ方があることに気づくでしょう。それは、さまざまな「つながり(関係)」への気づきです。

る空間・時間を意識して、どのようにつながればよいのかを
考えてみてください。社会と社会のつながりでは、移民の受
入問題や環境問題など、一つの国や地域では解決が難しい問
題を意識して、問題の解決に向けてどのようにつながればよ
いかを考えてみてください。国と社会のつながりでは、現代社
会に起こっている問題を、ローカル(地域的)な視点とグローバ
ル(地球規模)な視点の両方からとらえ、その中で自分ができるこ
とは何かを考えてみてください。こうしたことは、SDGsの「7
パートナーシップを促進」を意識しよくと深く(簡便して)

SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS



SDGsの17の目標は、人間(目標1～6)、豊かさ(目標7～11)、地球(目標12～15)、平和(目標16)、パートナーシップ(目標17)という、五つの要素のいずれが4つ以上に関係している。17の目標を達成するためには、各目標に関係する持続可能性を別々の課題について、考え続ける必要があります。例えば、「生命とは何か」という問いを考えると、SDGsの「1 貧困をなくそう」・「2 飢餓をゼロに」・「6 安全な水とトイレを世界中に」などの目標を考えることにつながるが、また「平和」とも何かという問いを考えると、「4 質の高い教育をみんなに」

んな」・「10 人国の不平等をなくそう」・「16 平和と公正をすべての人」にどのような視座を考へたことになるのでしょうか。すべからず、すべに答へるわけがなかったり、複数の答えが出てきたりすることもある「**本質的な問い**」は、他にも「**環境**とは何か」「**人権**とは何か」「**民主主義**とは何か」「**安全とは何か**」「**文化の多様性**とは何か」「**正義主義**とは何か」「**平和**とは何か」など、たくさんあります。「**本質的な問い**」を公民の学習のなかで見つけ、SDGsと関連づけながら、自分なりの答えを探し続けていきます。



公民の学習は、これまでに学んできたことをふまえた『**社会 科学の集大成**』となります。そのため、地理や歴史で学んだ事柄を活用することも、大切になってきます。

地理では、世界と日本の諸地域について学び、人々の暮らしの特質や抱える課題について学習しました。社会を、**空間的に理解する**方法を身につけてきたと習います。歴史では、時代的推移や変遷、人々、できごととの関係などについて学び、そ

れぞれの歴史の意義について学習しました。社会を、**時間的に理解**する方法を身につけてきたと思います。社会を空間的に、あるいは時間的にとらえていくことは、現代の社会を考えるうえでも、とても大切です。地理、歴史、そして公民で学んだ知識や情懷を活用し、**持続可能な未来のあり方**について自分なりに考え、さらに深めていくよう、学習を進めていきますように。

持続可能な社会に向けて

私たちの生活する社会には、ともに
所を例にあげて考えてみましょう。

気候変動の影響とみられる深刻な自然災害が、日本でも毎年発生しています。いつ、あなたの学校が避難所になるかもしれません。その時、避難所ではどのようなルールの下に運営されることが望ましいかを考えてみましょう。

2011年3月11日に発生した大地震による津波は、高台にある

大槌高校へ続く道のすぐ下まで押し寄せました。津波をのがれた大槌高校には地震発生直後から町民が続々と集まり、震災当日の夜から8月上旬まで、学校は避難所として利用され、多い時には1000人近くの被災者が避難していました。校庭は自衛隊の駐留所となり、教室には銀行や病院が入るなど、高校全体が一つの町のようになって避難者を支えました。

大館高校の避難所運営は、大館高校生徒と教職員で行われました。当時は、避難所運営に関するマニュアルなどではなく、避難者名簿の作成や、避難がわりの段ボールやカーテンの配布、トイレの水くみ、食料の配給、お湯などものを避難現場へ、病人の対応など、避難

りません。近年では、差別をあおるヘイトスピーチ^{p.5}も増えています。「ともに生きる」ということの意味を、改めて考えたいです。

各特設ページ・本時の各時間に
関連するSDGsの項目を、アイコンでわかりやすく紹介しています。

公民の教科書では、各章の「学習のまとめと表現」で、自らの意見をSDGsと関連づけて考える項目を設定しました。三分野の学びから、「持続可能な未来予想図」を描いていってほしいと思います！

